

心地よさが、確かな品質を支える。

日野デュトロの『安全・快適性能』

日々の配送を担うドライバーの負担軽減と、安全運行の継続を。日野デュトロは、この両面からビジネスを支えます。プロの現場へ、さらなるゆとりと確かな安心をお届けするため、充実した装備の中から2つの機能をご紹介します。

Safety
&
Comfort

日々の仕事を支える先進の装備

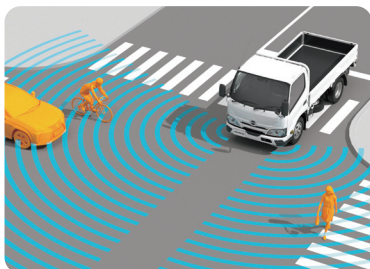


日野デュトロの紹介
動画はこちら

前側方から接近する移動物を監視して出会い頭での注意を喚起。

出会い頭警報 (FCTA: Front Cross Traffic Alert)

左右フロントの広角ミリ波レーダーが、前方死角エリアでの移動物を検知。衝突のおそれがある場合、警報音、ピラー部表示灯の赤色点滅とともに、マルチインフォメーションの表示により、ドライバーに注意を促します。見通しの悪い交差点での出会い頭の事故や、右左折時の前方死角での接触事故などを抑制します。



サイトアラウンド
モニターシステム
(出会い頭警報)
の動画はこちら

操作しやすい乗用車感覚のフロアシフト。

6速オートマチックトランスミッション

「S」レンジでシフト操作が行えるシーケンシャルシフトの採用により、ドライバビリティが向上。また、シフトレバーを小型化することで、室内の移動性と操作性を両立しました。アクセルとブレーキ操作のみで発進・加速に対応するATはドライバーの疲労軽減にも寄与します。



群馬県日本酒蔵元 × HINO DUTRO



日本酒を無事に届ける緊張感を、安全性能と乗り心地が支えてくれる。

製造工程を知っているからこそ、常に緊張感と隣り合わせ。

明治八年創業。群馬県みどり市で酒造りを続ける近藤酒造株式会社。銘酒「赤城山」は、仕込みから出荷まで多くの工程と時間をかけて造られる。その最後の工程に携わるからこそ、配送業務には自然と緊張感と責任が宿る。日本酒は、衝撃ひとつで瓶が割れてしまう繊細なもの。万が一積荷が崩れれば、一升瓶1本では済まない。ケースごと損傷になることもある。「ひとつも傷をつけずに運ぶか、割れるかの二択。常に緊張感がありますね」と担当スタッフの山本さん。大切に仕込まれた1本1本を無事に卸先へ届けるため、日々積み方を工夫し、崩れないよう細心の注意を払っている。その1本に込められた手間と想いを知っているから、最後まで気は抜けない。慣れがいちばん怖いからだ。

群馬プライムの応援が縁で、日野デュトロが新しい相棒に。

日野デュトロとの出会いは、地元の女子ラグビーチーム・群馬プライムを通じた縁から。ちょうどトラックの買い替えを検討していた頃、パートナー企業の会合で群馬日野自動車 太田支店の支店長と知り合い、日野のトラックを勧められた。実際に運転する山本さんがまず感じたのは、「普段乗っている車に近い感覚があった」。以前と比べても揺れが少なく、積荷を安定して運べる安心感がある。さらに、敷地内の限られたスペースでも小回りが利き、取り回しも格段にラクになったという。積み下ろしのしやすさや広い視界、先進の安全性能も、日々の仕事を支えている。近藤酒造の車両には、「赤城山」の標高にちなんだナンバーが刻まれている。地元への想いとともに、今日も日野デュトロは走る。



HINO
DUTRO